

将来の年金ではなく年金の将来を考える

行田市立西中学校

三年 駒野 真子

最近、選挙が行われ、選挙活動をテレビを通して見かけることが多くありました。その中で公約に上がっていたのはやはり税金についてでした。中でも年金と消費税についてはどちらもよく話題にされていました。

その年金について話っていた立候補者の意見は様々でした。

例えば現在、少子高齢化が進む日本は年々高齢者一人あたりを支える人数が減ってきているという問題があることから年金という形ではなく自分で責任を持って老後の資金を貯めるべきだという意見もありました。私も私たち世代の年金は約束されていないと感じるため年金制度に少し不安があります。しかし自分自身で老後のために何千万も貯金することは難しいです。そのため今から年金に頼らない生活を見据えていくことはとても大切なことだと思います。まだ職業が決まっていけない私たちに出来ることは年金がなくても自立した生活を送れるように責任を持ち、今から準備することだと感じました。

また、消費税については今年の十月で八パーセントから十パーセントになります。それに伴う軽減税率は世の中の多くの人がまだ十分に理解出来ていないのが現状だと感じています。軽減税率は複雑な制度であるため、各メディアが詳しく説明して

いる様子だったことから今後私たちはそういった新しい制度に對して理解し、適応していくことも大切だと思いました。

このように税金の制度や考え方が変わっていく中で私達は税金をきちんと支払うことが前提とされます。これからは消費税が増税され日常生活において負担が増える事もあります。それは将来を見据えた大きなくりとして捕らえ、その税金の必要性を理解し、受け入れなければなりません。そしてその税金の使い道においても多くの人が関心を持ち、その税金を使うことによつて何がどのように改善されていくのかを全体を通して考えていくべきだと思います。

そんな中、私はあるテレビ番組で興味深い特集を見ました。年金をテーマにして数人の男女が会話をしている、職業や年齢はそれぞれ違っていましたが、共感出来る事や納得する意見が多くありました。その中で二十代なのにIT企業に勤めながらも副業として起業をし、将来を考えている人もいれば、子育て世代で出費が多くこれからも学費がかかるためなかなか貯金出来ない人もいました。それを聞いて私は世代によつて最も必要な税金の使い道は様々であることが分かりました。

これらのことから税金の役割を長い目で見ると一人ひとりの生活を維持するだけでなく、将来的にもそれが継続する為に税金を使うことが私達社会のためになり、将来につながるのだと思います。つまり税金や年金制度の将来について考えることは、持続可能な社会を作るために不可欠なのです。これからは私も視野を広げ税金について考えていきたいです。